

外部団体等による海外留学プログラム

学務部留学交流推進課(H30.04 更新)

新潟大学が実施するショートプログラムや交換留学以外に、「私費留学」「個人留学」等と呼ばれる、外部団体等による海外留学プログラムがあります。この中で、一般的に知られている留学スタイルを本資料に記載していますが、新潟大学として特定のプログラムを勧めたりすることはしていませんので、申し込みを行う際には、個人の責任で十分注意して行ってください。

1. 語学留学

・語学を集中的に学ぶ留学のことを、一般的に「語学留学」と呼びます。経営母体により、学校は大きく次の二つに分けられます。

- ① **私立の語学学校**…多くの学校では入学時期や期間を自由に選べ、ビギナーから上級者まで幅広いクラスが用意されています。特に、会話中心のコースの人気の高いと言われています。
- ② **大学等の高等教育機関に付属する語学学校・語学コース**…学部への正規留学を希望する学生が長期で学ぶほか、サマープログラム等の短期コースもあります。私立の語学学校よりもアカデミックな傾向が強いとされます。

・語学留学の種類としては、下記のようなものがあります。

- **一般英語コース**…「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく身に付けていきます。学校にも寄りますが、授業時間数が比較的少ないため、自分のペースでじっくりと英語の勉強に取り組むことができます。
- **進学準備コース**…大学等の高等機関への留学を目指す人のためのコースで、エッセーの書き方やディスカッションの技術等、アカデミックスキルを身に付けることを目的とします。他のコースに比べて課題等も多く、一定レベル以上の語学力が必要となります。
- **試験対策コース**…TOEIC や TOEFL, IELTS 等 (英語圏の場合)、試験での点数向上を目的とするコースです。試験の日程に合わせてカリキュラムが組まれるため、多くの場合開講時期が決められており、受講には中級以上程度の語学力が必要とされます。
- **ティーチャーズホームステイ**…語学教師の資格を持つ先生宅にホームステイをしながらレッスンを受けるプログラムです。マンツーマンで学ぶことが多いため、自分の弱点を克服する授業内容にもらえるという利点があります。
- **英語＋インターンシップ**…英語研修に企業研修が含まれたプログラムです。学校の授業では、一般英語を基本にしながらビジネス英語を学び、職場では電話応対、書類整理等の補助的な業務を体験します。尚、殆どの場合、インターンシップにおける報酬はありません。
- **英語＋ボランティア**…英語研修とボランティア活動を行うプログラムです。ボランティアとして人気が高いのは、保育園でのチャイルドケア、幼稚園教師アシスタント、老人施設や障害者施設でのヘルパー、日本語教師アシスタント等と言われています。
- **英語＋アクティビティー**…主に私立の語学学校で設けられていることの多いコースで、英語研修以外に、スポーツや料理、ガーデニング等のアクティビティーを体験します。

2. 高等教育機関への留学

・新潟大学との協定を結んだ大学への交換留学以外に、外部団体等によるプログラムとして、下記のような留学スタイルが知られています。

● 正規留学 (編入含む)

・学位取得を目的とし、海外の大学や大学院へ進学します。可否は、日本での成績証明書、エッセイ、推薦状、英語力証明書等の書類審査 (場合によっては面接審査を含む) によって決まります。また、日本で取得した大学の単位を、希望する大学の単位に移行して編入する「大学編入」もありますが、移行できる単位が何単位認められるかは、留学先の大学の判断によって異なります。情報は、日本学生支援機構 (JASSO) や各国大使館等のホームページ、留学フェア等を利用して収集することができます。

- JASSO 海外留学支援サイト: <http://ryugaku.jasso.go.jp/>
- JASSO 留学ガイドブック「私がつくる留学」: <http://ryugaku.jasso.go.jp/publication/guidebook/>
- 駐日外国公館ホームページ: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/link/embassy/index.html>

● エクステンション

・生涯教育が盛んな欧米諸国では、大学等の高等教育機関で一般社会人向けの公開講座を提供していますが、これを「エクステンション」と呼びます。このようなエクステンションの中には、留学生向けのコースを提供している場合もあります。3ヶ月程度の短期コースから1年のコースまで様々なプログラムがあり、修了をすると diploma や certificate と呼ばれる資格等が取得できる場合もあります。

● ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム

・留学生のために設けられた1年間の大学留学プログラムで、前半は英語コースを履修し、後半は学部授業を履修します。原則として大学の2年次を修了していることが条件で、大学3年次に留学します。日本の大学生に合わせて4月から翌年3月までコースを実施している大学もあります。

3. 専門留学

・学位取得を目的とせず、将来の仕事に直結する教育を受けるための留学を指します。専門学校、コミュニティカレッジ、大学・大学院等がプログラムを提供していますが、語学学校が専門性の高い英語と講義を合わせたプログラムを開講している場合もあります。専門学校やコミュニティカレッジでは職業に直結した実践的なスキルに焦点を当て、大学・大学院では学術的な内容を中心に学びます。

・教育機関やプログラムの内容によって、期間は1か月程度の短期から、1～2年程度の長期まで様々であり、コース終了後には diploma や certificate と呼ばれる資格等が取得できる場合もあります。

4. ワーキングホリデー ※ワーキングホリデーに関する情報は、今後予告なく変更となる場合があります。

・協定を結ぶ二国間で取り決められた内容に基づき、一定期間の国際交流を行えるように設けられた制度を「ワーキングホリデー」と呼びます。外務省に寄れば、2018年2月現在、日本政府と協定を結んでいる国は、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、韓国、フランス、ドイツ、イギリス、アイルランド、デンマーク、台湾、香港、ノルウェー、ポルトガル、ポーランド、スロバキア、オーストリア、ハンガリー、スペイン、アルゼンチン、チリの20か国・地域です。各国が定めたワーキングホリデービザ（査証）取得要項に基づきビザを取得し、定められた出発期限までに渡航すれば、各国の定める上限期間（通常は1年間）まで滞在することができます。

・ワーキングホリデーを目的とした入国・滞在には、ワーキングホリデービザ（査証）が必要です。国ごとの細かな条件を除けば、参加資格は一般的に18～30歳の青年であること、及び日本国籍を有していることです。ワーキングホリデーの利用は、原則として一か国につき1回のみと定められています。協定に背かない限り、海外での過ごし方は利用者の自由であり、制限はありますが、アルバイト等の就労経験をすることもできます。

・ワーキングホリデービザを取得する際の留意点は、各国には「定員」があり、定員を超えた場合には、抽選となる場合があるという点です。また、ビザ申請時には、残高証明書等の各種書類提出が義務付けられる場合もありますので、ワーキングホリデー制度を利用したい場合には、最新の情報に常に注意を払う必要があります。

➤ ワーキングホリデー関連のウェブサイト：

・ 外務省 ビザ（査証）ワーキング・ホリデー制度：

http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/visa/working_h.html

・ 一般社団法人日本ワーキング・ホリデー協会：<http://www.jawhm.or.jp/>

・ 駐日外国公館ホームページ：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/link/embassy/index.html>

5. オーペア

・「オーペア」とは、現地家庭にホームステイをしながら、家事手伝い等をする生活スタイルを指し、欧米諸国ではよく行われています。滞在費や食費を無料、または安くしてもらえるため、留学費用を節約したい場合に有効とされます。午前中は語学学校に通い、午後はホームステイ先の家庭で働く等の生活スタイルが一般的です。

6. ファームステイ

・農家にホームステイをして農作業を手伝う生活スタイルを指し、主にオーストラリア、ニュージーランド、カナダで良く行われています。手伝いを行うことによって、滞在費や食費を抑えられるという利点があります。